

ヒマラヤの青い空 とカトマンズ

～姉妹都市・市民交流30年の歩み～



夕照の世界最高峰エベレスト 8848m
とモン峠 4000mのチョルテンと はためくタルチョー
撮影 鈴木 雅則

特定非営利活動(NPO)法人 松本ヒマラヤ友好会

事務所・本部 〒390-0852 松本市大字島立 4539 番地 7

TEL: 0263-47-6197 FAX: 0263-47-5685

E-mail : mhc@lily.ocn.ne.jp <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>



KATHMANDU VALLEY

カトマンズ盆地 (部分拡大)

ネパール全図





ごあいさつ

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会 (MHC) は、1990 年 4 月に任意団体として創立。松本市は、1989 年 11 月姉妹都市提携を調印したカトマンズ市と、官民一体となった交流を進めるべく松本市カトマンズ市姉妹提携委員会を設立し、1990 年 4 月、第一回総会において、松本ヒマラヤ友好会は、その役員に推薦され、その交流推進の責任を担っていくこととなりました。

創立以来約 30 年間、松本市と姉妹都市カトマンズ市との文化・芸術交流や、国際協力事業、及び山岳スポーツの振興を図る活動等を、積極的に実施し、2000 年 3 月には、特定非営活動(NPO) 法人として県より認証され、今日まで至った次第です。

あらためて、これまでの 30 年間の両市民をはじめとする大勢の皆様からの、ご理解、ご協力、ご鞭撻に、心から御礼申し上げる次第です。

そしてこの度、MHC が実施した市民レベルの 30 年の歩みを振り返り、その軌跡を、「**ヒマラヤの青い空とカトマンズ**」～姉妹都市・市民交流 30 年の歩み～と表題して、小冊子にまとめることが、そして、MHC 活動記念館に展示発表する事ができました。編集に当たり、数多くの事業内容について、簡易で事務的なまとめ方となったことを、お詫び申し上げます。

一つ一つの事業を振り返ると、各事業への苦勞と、様々な思い出がよみがえり、あらためて、ご理解とご協力いただいた、皆様へ、深い感謝の想いが、込み上げてまいります。

この小冊子に記載された、また記念館に展示発表された各事業活動が、一つの歴史的事実として、次世代に続く市民交流のなご一層の発展に役立つことを、心から願っております。

平成 31 年 2 月 4 日



特定非営利活動 (NPO) 法人松本ヒマラヤ友好会
理事長 鈴木 雅則

特定非営利活動法人 松本ヒマラヤ友好会 定款 (抜粋)から

(名称)

第1条 この法人は、**特定非営利活動法人 松本ヒマラヤ友好会** といい、英文名は **MATSUMOTO HIMALAYA FRIENDSHIP CLUB** とし、略称を **MHC** とする。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を長野県松本市大字島立 4539 番地 7 に置く。

住所：〒390-0852 松本市大字島立 4539 番地 7
TEL: 0263-47-6197 FAX: 0263-47-5685
E-mail: mhc@lily.ocn.ne.jp <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>

2 この法人は、前項のほか、従たる事務所を

Tokha Municipality 10 Kathmandu Nepal House No. 183 に置く

設立：MPO 法人設立 2000 年 4 月 (当初、任意団体としての設立 1990 年 4 月)

代表者：理事長 鈴木 雅則

会員数：232 名 (松本本部 56 名 ネパール支部 176 名, 2018 年度)

事業規模：2000 年度 640 万円	2002 年度 866 万円	2004 年度 1352 万円
2006 年度 1578 万円	2007 年度 2170 万円	2008 年度 1560 万円
2010 年度 1622 万円	2012 年度 1272 万円	2013 年度 2172 万円
2015 年度 1015 万円	2016 年度 561 万円	2017 年度 420 万円

(税理士法人 成迫会計事務所)

(目的)

第3条 この法人は、ネパール並びにヒマラヤ地域の人々に対して国際協力及び交流に関する事業を行い、松本市民をはじめとする長野県内外の人々とネパール並びにヒマラヤ地域の人々との友好を深め、相互の理解と発展に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 文化、芸術、スポーツの振興を図る活動
- (2) 国際協力の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

特定非営利活動に係る事業

- ①ネパール地域の文化、伝統的芸術の紹介、ネパール地域の写真展、ネパール地域の工芸物製品の展示販売の各事業
- ②北アルプス等での親睦登山、ネパール地域においては、ヒマラヤトレッキング等、山岳を通じたスポーツ交流事業
- ③国際協力事業基金の設立によるネパール地域の勤勉学生への奨学基金の運営及び学校建設とその運営、医療奉仕、農業指導等の事業への協力



Kathmandu Metropolitan City Office



Kathmandu Metropolitan City Office
Kathmandu
2052

January 31, 2019

President Mr. Masanori Suzuki

Matsumoto Himalayan Club(MHC), Matsumoto, Japan.

Re: Congratulatory Message From Nepal.

I have a great pleasure and honoured to respond your e-mail and congratulate MHC team for constructing the memorial hall and opening it soon. Being a part of MHC on the occasion of the 30th year of Sister-City Relations between Kathmandu & Matsumoto is a great achievement for the people of Nepal and the members of MHC Nepal Chapter.

I came to know that, The memorial hall inauguration news has been appeared in the Japanese news paper.

In the same concern, we are very optimistic with our young wing which has big expectation from MHC Japan. They are planning various activities to conduct in your close co-operation.

Once again, I **appreciate & congratulate** the whole team of MHC for all these achievements. In addition I offer my sincere thanks for guiding us in the years we spent together.

Regards,

NUR NIDHI NEUPANE, DIRECTOR &

General Secretary, MHC Nepal Chapter.

P.O. Box : 8416, Bagdurbar, Kathmandu, Nepal, Ph.: 4231477, Fax: 977-1-4268509
E-mail : kmc mayor@mos.com.np, website: <http://www.kathmandu.gov.np>

My Legacy, My Pride, My Kathmandu

カトマンズ市役所

2019.1.31

松本ヒマラヤ友好会 理事長 鈴木雅則 様

ネパールからお祝いのメッセージ

私は、記念館が造られ、間もなく開館することについて、MHCの皆様にご挨拶する事を、大変に光栄であり、うれしく、思っています。

カトマンズと松本が姉妹都市提携30年となるこの時に、MHCの一員であることは、ネパールの人々とMHCネパール支部のメンバーにとって、素晴らしい成果でした。

新しい記念館の開館が。日本の新聞に記載され、私はそれを知りました。

同様な事について、私達は、MHC日本から大きく期待されている私達のネパール支部の若い翼を使うことで、非常に楽観的に考えています。彼らは、貴方の密接な協力と指導で行う様々な活動を計画しています。

繰り返しになりますが、私は、これらの成果に対し、MHC皆様全員に**感謝し、祝福**致します。また、私達が一緒に過ごした年に、私達を導いてくれたことを、心からお礼を申し上げます。

敬具

ヌルニデイ・ネオパネ 部長
MHCネパール支部 事務総長、

MHC ネパール支部

サンタラム・ポハレル氏

⑥MHC ネパール支部は、ネパール政府公認の委員会。サンタラム・ポハレル氏が支部長として運営責任に当たり、TEL、FAX、メール、打ち合わせ会議など事務所諸経費 100,000 円/年を送っている。住所カトマンズ市内の Tokha Municipality 10 Kathmandu Nepal House No. 18 に置く

概歴

会員 176 名 ・ 2018 年度

・ 献血活動 ・ MHC-ネパール支部の青年部門

8/12 ・ 献血キャンペーン 献血協力 75 人分

1/21 ・ トカ地域への献血キャンペーン献血
協力 100 人分

・ 毎週土曜日 ・ 川と都市の清掃活動

・ 学校訪問 ・

2017.8/27 トカ地域の震災孤児たちへランドセル、帳面等教材配布

201711/5 150 人分の教材配布、震災孤児 4 人へ奨学金提供

2018.1/21 150 人分の教材配布、松本市交流員会カトマンズ部会からも
8 万円分の防寒セーター寄贈

2018 年度の企画 ・ MHC ネパール支部会員 176 名全員(名簿参照)協議
MHC-ネパール支部の事業企画を青年部が実行する

・ 献血活動

・ 川と都市の清掃活動

・ 学校訪問 ・ 教育文具配布、奨学金支給、

・ ネパール物産品の製作作業

・ ネパールの物産品の製作事業

上高地などで展示販売する、MHC ネパールオリジナル製品を
ネパール人の支援NGO活動により製作。

ネパール貧困女性の経済支援活動に役立っています。



汚染された川の清掃活動



献血キャンペーン



カトマンズ市役所も広報活動



学校訪問文具寄贈、親を亡くした児童へ奨学金支給



MHC ネ青年部



MHC ネパール支部役員ら

活動に係る事業

① ネパール地域の文化・伝統的芸術の紹介、ネパール地域の写真展、ネパール地域の工芸物産展示販売の各事業。

①ヒマラヤ写真の第一人者であり日本を代表する山岳写真家内田良平氏の写真展と、松本市内外からの市民参加によるネパール写真展(1991年10月、1993年9月、1994年10月)を松本駅前のデパート等で開催。松本市長賞、カトマンズ市長賞等をもうけ盛上げました。1991年、1994年の収益金の内、各年20万円、計40万円を松本市提携員会へ寄付。



山岳写真家内田良平氏の写真展と松本市内外からの市民参加によるネパール写真展開催

②1993年カトマンズ市の協力製作による世界文化遺産や古都カトマンズ、そして人々の暮らしぶりを、現地でビデオ収録し、地元TV松本のテレビ番組で紹介。松本の建築専門家の解説も行ってもらう。

③また1991年～1995年まで市民参加による4回のヒマラヤ・トレッキングを4年連続で地元TV松本のテレビ番組で紹介。ラジオにても解説してネパール・カトマンズの理解を広く求めました。



PL・シン市長(当時)と内田良平さんの協力を得て、古都カトマンズの伝統的な街づくりを映像化し、地元TV松本のテレビ番組で紹介。また1990年～1994年4回のヒマラヤトレッキングを実施し、地元TV松本で紹介。

⑤1994年10月、英語版エベレストトレッキングを元に著者の山岳写真家内田良平さん自身の解説による「内田良平・エベレスト街道を行く」をTV松本にて30分番組で放映。

④1995年9月、松本市へ「内田良平作品15点」を寄贈、時価100万円以上、市民課の内壁に2014年現在も「夕照のエベレスト」の大パネル・サイズ2m×3mが展示されている。



「エベレスト街道を行く」放映 松本市へ「内田良平作品15点」を寄贈 第一回市民参加ネパール写真展

⑥1995年10月に、市姉妹提携委員会主催の第一回市民参加ネパール写真展の開催の運びとなる。鈴木理事は実行委員長として運営責任者となる。大勢の方々の出品を得て開催となった。優秀作品にはカトマンズ市長賞、松本市長賞、他にて表彰。ネパールで活動する民間団体も紹介。

⑦1998年4月～5月、市民参加によるカトマンズの世界文化遺産、**釈迦の生誕地**を訪ねる第一回ネパール文化紀行を実施。これは、カトマンズ市役所からブッダの生誕地ルンビニ訪問を願う想いに答えたものであり、前年視察を行い、オリジナル企画として、実施したものである。

第2回は2003年12月～2004年1月、第3回は2006年12月～2007年1月、第4回は2009年1月、第5回目は2012年12月～2013年1月、に**ネパール文化紀行**を実施。



市民参加によるカトマンズの世界文化遺産、釈迦の生誕地を訪ねる、ネパール文化紀行を実施。

⑧1999年6月には、カトマンズ市役所の全面的協力により、**日本初100年前のガラス版ネガによるカトマンズの写真展**25点、現代カトマンズ写真家の写真展、同時にMHC主催による、**第2回市民参加ネパール写真展**を、駐日ネパール王国特命全権大使夫人が出席して、開催。応募作品には、カトマンズ市長賞、松本市長賞等を授与し話題となりました。



⑨2001年9月には、松本近郊のデパートで、**カトマンズ・ケシャブスタピット市長の紹介によるネパールの一流画家スリージャン・R・バンダリによる絵画展**、同時に**第3回市民参加ネパール写真展**を開催。開催事には、カトマンズ市から行政官・部長ら家族と共に7人来松。友情を深めました。



100年前のガラス版ネガによるカトマンズ写真展は大使夫人を招いて開催。ネ画家による絵画展を松本で開催

⑩2002年6月には、駐日ネパール王国特命全権大使ケダール・バクタ・マテマ氏ご夫妻を招待して、両国の絆が一層深まる事を願い、M ウィング 300 人ホールで**ネパール・ヒマラヤ映画会**、及び県内ネパール関係者によるマテマ大使との意見交流会を開催。また、上高地の山岳関係者とマテマ大使との懇談会をもうけ、山岳交流について話し合いました。



駐日ネパール王国特命全権大使ケダール・バクタ・マテマ氏ご夫妻を招待しネパール・ヒマラヤ映画会、県内ネパール関係者によるマテマ大使との意見交流会、上高地の山岳関係者とマテマ大使との懇談会を開催

⑪2002年10月には、ネパール大使館主催の一般公募第一回ネパール写真展(東京新宿三省堂文化会館で開催)に、理事長は運営に携わり、副実行委員長、審査員として応援。日本全国から160名、作品約600点が寄せられ、ネパール大使賞等が選ばれました。橋本元首相を来賓として招待、賛辞を頂く。



橋本元首相も招待されたネパール大使館主催の一般公募第一回ネパール写真展会場

⑫2003年5、6月の2回、諏訪市諏訪図書館で、又2003年7月、松本市Mウィングで「カトマンズの街」「エベレストトレッキング」のビデオ映像を鑑賞してもらいながら、各2時間講演。2004年8月、八十二銀行笹賀支店で、ネパール写真展開催。好評を得る。

⑬2004年11月、松本駅前中央公民館Mウィングで、市民参加の「ネパール文化紀行」報告写真展。

⑭2005年10月、姉妹提携15周年記念登山アイランドピーク登頂報告写真展、一般公募による「市民参加のカトマンズ写真」他を展示発表しました。



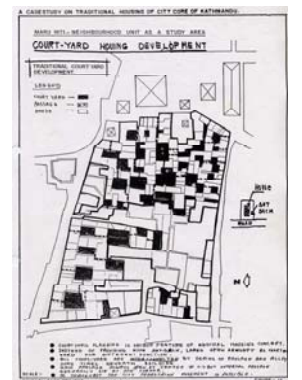
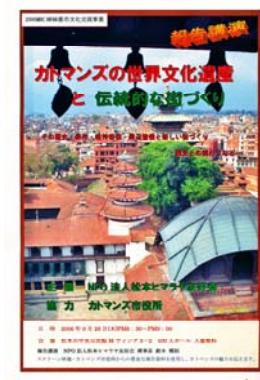
八十二銀行笹賀支店写真展 Mウィングで姉妹提携15周年記念市民参加写真展とアイランドピーク登山報告写真展

⑮2005年11月松カ姉妹提携委員会の視察団長として鈴木理事長がカトマンズ市訪問、JICA、日本大使館と情報交換、カトマンズの武道館の建物と造成地を視察する。帰国後、菅谷市長へ状況報告。

⑯2006年2～3月、中央公民館Mウィングで「2005MHC登山講習報告写真展」「エベレスト展望トレッキングとカトマンズ訪問報告写真展」を開催。写真120点と映像で紹介、大勢の来場者がありました。

⑰2006年9月、中央公民館Mウィングで、カトマンズ市役所の協力を得て、「カトマンズの世界文化遺産と伝統的な街づくり」と題し、世界文化遺産の維持保全、周辺整備、新しい街づくり、観光との関わりについて、鈴木理事長が報告講演を行う。カトマンズへの深い理解に役立った。

⑱2007年1月、NHK松本支局においてMHC写真展を開催。A1、A2パネル写真約30点、他25点。



カトマンズ市武道館等視察し、菅谷市長へ帰国報告する、講演「カ市協力による世界文化遺産と伝統的な街づくり」

⑱松本市市制 100 周年事業として、2007 年 9 月 20～25 日「MHC 登山講習」報告写真展、2008 年 1 月 31～2 月 4 日、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」報告写真展を松本駅前井上デパートで開催。カトマンズ市長賞を表彰するため、カトマンズから 13 名の視察応援団が来松する。他に松本市長賞、松本商工会議所会頭賞、各マスコミ賞をもうけ、広く関心をもたれました。



市制施行 100 周年記念「2007MHC 登山講習」写真展開催、カトマンズ市訪問とエベレスト撮影紀行写真展開催

⑲2009 年 7 月 3 日ネパール大使館主催による在県ネパール人と松本市民のサッカー試合交流会、7 月 3 日ホテルブエナビスタで市議会議員及び議員との懇談会、中央公民館Mウィングでの松本カトマンズ市姉妹提携 20 周年記念祝賀会開催を松本市と共に支援。MHC の 20 年間の交流・国際協力活動に対し、駐日ネパール政府特命全権大使ガネッシュ・ヨンザン・タマン大使より MHC へ感謝状が授与される。7 月 4 日上高地、市営アルペンホテルにて、山岳関係者とのネパール交流の懇談会を開催。



ネ大使館主催による松本市民と在県ネ人とのサッカー試合 タマン大使と市議会議員及び議員との懇談会



M ウィング 6F でネ大使館主催の松カ姉妹提携 20 周年祝賀会を開催。 上高地で山岳関係者との交流懇談会

⑳2010.1 月末～2 月始、MHC 創立 20 周年記念事業、カラパタール 5545m 登頂を目指した姉妹提携 20 周年記念「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行Ⅱ」報告写真展を井上デパート本館で開催。好評を博す。21、2011 年 1 月末～2 月始、プーンヒル 3190m 登頂を目指した「岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行」報告写真展として井上デパート本館で開催。一般公募も行いカトマンズ市長賞等授与し好評を博す。



姉妹提携 20 周年記念「エベレスト撮影紀行Ⅱ」報告写真展及び「アンナプルナ撮影紀行」報告写真展と授与式

22、2012年1月末～2月始、ゴージャクピーク登頂を目指した「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ」報告写真展として、井上デパート本館で開催。一般公募も行い、カトマンズ市長賞等授与し、好評を博す。

23、2013年1月末～2月始、「第5回ネパール文化紀行」報告写真展として、井上デパート本館で開催。㊶21,22,23は、一般公募も行い、カトマンズ市長賞、松本市長賞、各マスコミ賞を設け、広く関心をもたれました。



岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ報告写真展

第5回ネパール文化紀行報告写真展開催

24、2013年9月初旬に行われた「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」の報告写真展(松本市後援)として、井上デパート本館で開催。好評を博す。一般公募も行い松本市長賞等を設け、広く関心をもたれました。



「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」報告写真展開催

25、2005年～2013年、毎年1回、計9回、安曇野市穂高北小学校、RTA、児童会から、クムジュン校へサッカーボール、バレーネット、鉛筆、帳面等の文具25kg～30kgを寄贈。MHCが支援、運搬と引渡しを行った。



市民タイムス



クムジュン校庭

サッカーに興じる
クムジュン校生

安曇野北小学校生らから文具託される クムジュン校へサッカーボール等寄贈

26、「ネパール音楽の夕べ」と題し、2007年9月、2008年8月は松本Mウイング、2012年9月は、松本のあがたの森文化会館講堂ホールで開催。2013年9月上高地アルペンホテルで、ネパールの歌姫スンダリミカコンサートを生演奏によりダンサーの舞踏を披露して開催。

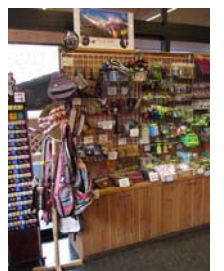


「ネパール音楽の夕べ」ネパールの歌姫スンダリ・ミカ・コンサート開催

27、ネパール・カトマンズとヒマラヤ講演事業は、松本中央公民館、諏訪市図書館、大町山岳博物館、松本市各町会公民館、塩尻市文化会館レザンホール、安曇野市穂高北小学校の講堂等・・・毎年のように行っている

28、ネパール地域の工芸物産の紹介と展示販売は、市営上高地食堂、市営上高地アルペンホテルで毎年期間中開催。MHCオリジナル製品をネパールの支援者みより製作してもらい搬送。

ネパール貧困女性の経済支援活動にも役立っています。



ネパール工芸物産の紹介と展示販売

29、2014年10月16日（木）～10月19日（日）に、会場 井上デパート本館7階大ホールにおいて、「岳都カトマンズ訪問と花のエベレスト撮影紀行IV」の報告と、一般応募作品発表として、表題「岳都カトマンズ訪問とネパールヒマラヤ」写真展が、開催されました。

表彰式は、2月18日（土）ホテルブエナビスタ 3F グランデ MHC25 周年記念謝恩会場で挙る。

審査員 山岳写真家 内田良平氏により、優秀作品は、ネパール大使賞、カトマンズ市長賞、松本市市長賞、入賞等が選抜され、ネパール大使賞はバッタライ大使、カトマンズ市長賞はカトマンズ副市長代理サンタラムポハレルさんが出席。受賞者に直接手渡されました。



写真展会場



バッタライ大使夫妻と会場で記念撮影



ネパール大使賞を授与



信濃毎日新聞記事

30、2014年10月18日(土)PM6:30～8:45 ホテルブエナビスタ 3F グランデにおいて、MHC 創立 25 周年記念謝恩会を開催致しました。来賓者としてネパール特命全権大使マダン・K・バッタライ大使ご夫妻、カトマンズ市からは、サンタラム・ポハレル副市長代行ら 8 名、又松本市からは、坪田明男副市長、太田更三市議会議長らも御出席頂き、ご祝辞を賜りました。



MHC 創立 25 周年記念謝恩会々場

31、2015年7月9日、9月16日「ネパールカトマンズスライド上映による講演会」PM6:30～8:30 M ウィングにおいて、●地震被害の様子と被災者支援・復興について、近況報告 ●ネパールの歴史・文化・ヒマラヤを解説。



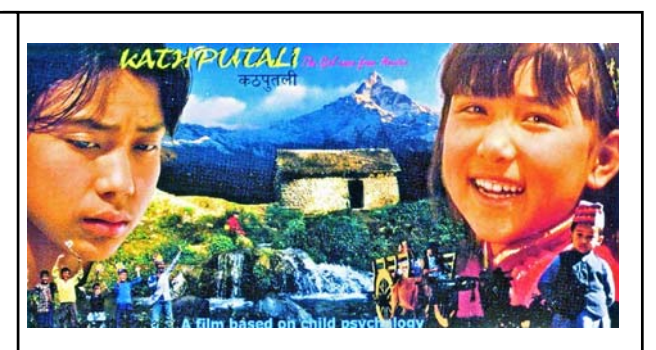
市民タイムス



信濃毎日新聞記事

32、2015年10月2日（金）PM6:30～PM8:30 Mウィングにおいて MHC 主催 ネパール映画上映会開催 第一部 「ネパールの被災状況と復興」 講演者 スンダリ・ミカ 第二部「ネパール映画・カタプタリー風の村の伝説」

監督伊藤敏朗提供スタジオサードアイ代表



33、2015年10月15日(木)～10月18日(日)に、「松本ヒマラヤ友好会山岳写真展一カトマンズ・ヒマラヤー編」として、会場井上デパート本館7階大ホールにおいて、「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行V」の事業報告写真展と参加者及び一般応募作品の写真展として開催。

カトマンズ側からは、賞状と祝辞が寄せられ、交流と相互理解のため高い評価がされました。



松本平タウン情報(当時)

カラパタール 5545mからの夕照に輝くエベレスト 8848m

34、2016年2月4日(木)～2月7日(日) MHC 山岳スポーツ振興事業－2015MHC 登山講習報告「松本ヒマラヤ友好会山岳写真展-北アルプス編-」が、会場井上デパート本店7階催事場大ホールで開催。

報告写真120点並びに参加者皆様の作品50点が展示され、山岳写真家内田良平さんが審査員となり、特別賞、金賞、銀賞、銅賞、入賞3、佳作3などが表彰されました。

35、2016年10月13日(木)～10月16日(日)に、会場 井上デパート本館7階大ホールにおいて

日ネ国交60周年記念事業・MHC松カ姉妹都市交流事業、表題「松本ヒマラヤ友好会山岳写真展一カトマンズ・ヒマラヤー編」、「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行VI」の事業報告と、参加者と一般応募の作品発表として開催。ネパール及びカトマンズを紹介する写真展の為、60周年記念事業として外務省が後援しました。日本で唯一の日ネ国交60周年記念写真展(外務省談)となりました。



写真展会場



ネパール臨時大使ご来場



表彰式開催



表彰者の記念撮影

表彰式は、10月15日(土)井上デパート本館7階大ホール写真展会場で、アリヤル・ネパール臨時大使出席の元、盛大に開催。審査員山岳写真家 内田良平氏により、優秀作品は、ネパール大使賞、カトマンズ市長賞、松本市長賞 各マスコミ賞、入賞等が選抜され、表彰されました。カトマンズ側からは、賞状と祝辞が寄せられ、関係者からは、交流と相互理解のため高い評価がされました。

この写真展は、朝日、毎日、読売、産経、中日の各全国新聞社、地元、信濃毎日、市民タイムス、長野日報の地方新聞で、写真掲載で紹介され、広く話題を呼びました。



毎日新聞



朝日新聞



市民タイムス

36、2017年10/12(木)～10/15(日)に会場 井上デパート7階大ホールにおいて、「松本ヒマラヤ友好会山岳写真展—2016・2017MHC 登山講習編、中部山岳編が開催されました。事業報告写真100点、応募作品70点が展示されました。

表彰式は、10月15日(土)井上デパート本館7階大ホール写真展会場で開催。審査員山岳写真家 内田良平氏より、優秀作品は、金賞、銀賞、銅賞、内田良平特別賞、入賞等が選抜され、表彰されました。



内田さんより金賞を授与される小松佑次さん

金賞 残雪の立山連峰縦走路 小松 佑次
 銀賞 剣が峰映える秋彩 丸山 祐司
 銅賞 奥穂より槍穂連峰を望む 市川 浩章
 授賞式

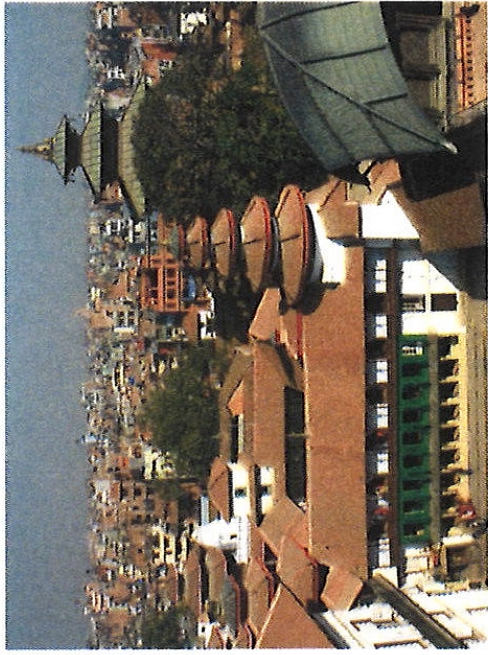
37、2018年10/4(木)～10/8(月) 松本ヒマラヤ友好会山岳写真展—中部山岳・ヨーロッパアルプスヒマラヤ編 ・会場井上デパート7F大ホール・・報告写真展と一般公募作品 審査員 山岳写真家 内田良平さん(辛い療養中審査していただき、分かり易い総評もして頂きました。感謝申し上げます。) 優秀作品に金、銀、銅各賞、内田良平特別賞、入賞Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各賞が厳選されました。優れた作品を通じて、来場者に山の魅力を伝えました。



金賞 エベレスト 大村 裕
 銀賞 マッターホルン北東稜を望む 丸山 清榮
 銅賞 花の乗鞍高原 海野 靖子
 内田良平特別賞 世界最高峰の夕焼け 市川 浩章



ネパール・カトマンズの世界文化遺産



カトマンズ旧王宮前広場



スワヤンブ・ナート



パシュパティ・ナート



ボド・ナート

1997年10月世界遺産委員会カイロ会議においてカトマンズ盆地の7か所、釈迦の生誕地ルンビニがユネスコ世界遺産に登録。歴史的文化的的重要性、唯一無二の存在感、人類の歴史や文化を代表するに値すると評価。

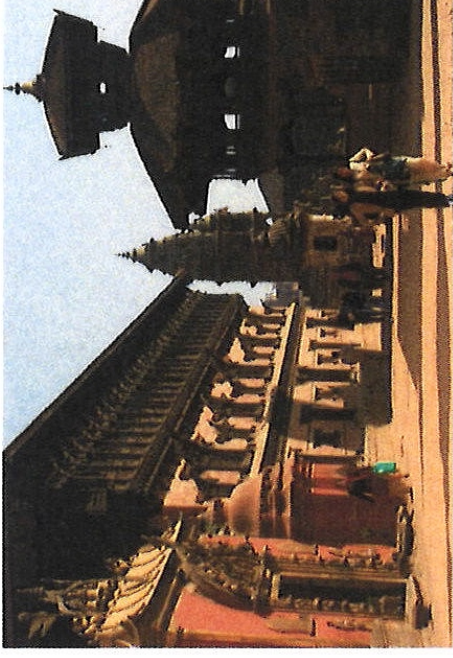
遺産の維持・修繕は、ネパール政府の考古学部門が担当。市も観光部門で保護と観光促進を遂行。維持と保護の経費は、政府の補助金、外人観光客の入場料、地域開発基金が当てられ、周辺地域の発展のためにも役立っている。



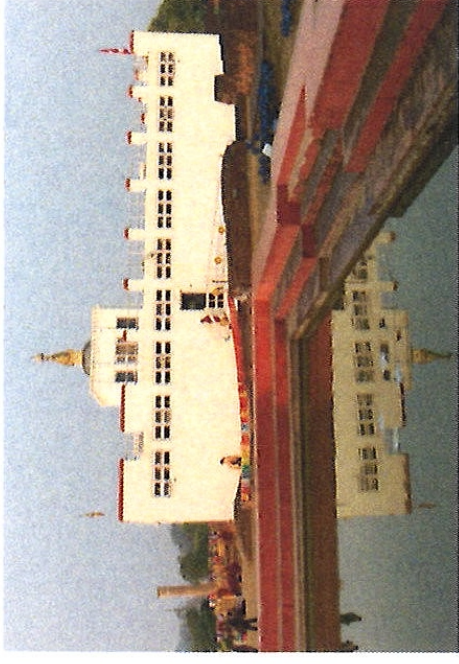
パタン旧王宮前広場



チャングナラヤン寺院



バクタプール旧王宮前広場



釈迦生誕地ルンビニ



世界文化遺産バクタプールのトマディ・トーレ ビシュヌ神の神妃ラクシュミーを祀るニャタポラ寺院(1,708年建造)やバイラブ寺院(1718年建造)が建つ広場周辺の名前



世界文化遺産 バクタプールに建つニャタポラ寺院。1708年建造。トマディ・トーレの広場を歩く母と子



ネパールの民族衣装サリーの良く似合う女性。宿泊ホテルのロビーで、働いていて、撮影に快く応じてくれた。



世界文化遺産バクタプル、旧王宮前広場。左の建物は、55の木彫りの窓があり、55窓の宮殿と呼ばれる



バクタプルの王宮内の建物、そこに、近所の親子だろうか、くったく無い明るい笑顔が眩しい。



世界文化遺産 パタンの旧王宮前広場と建物群



世界文化遺産 チャングナラヤン寺院 ビシュヌ神を祀る AD4C建造
カトマンズ盆地で最も古く、美しい建物として有名。

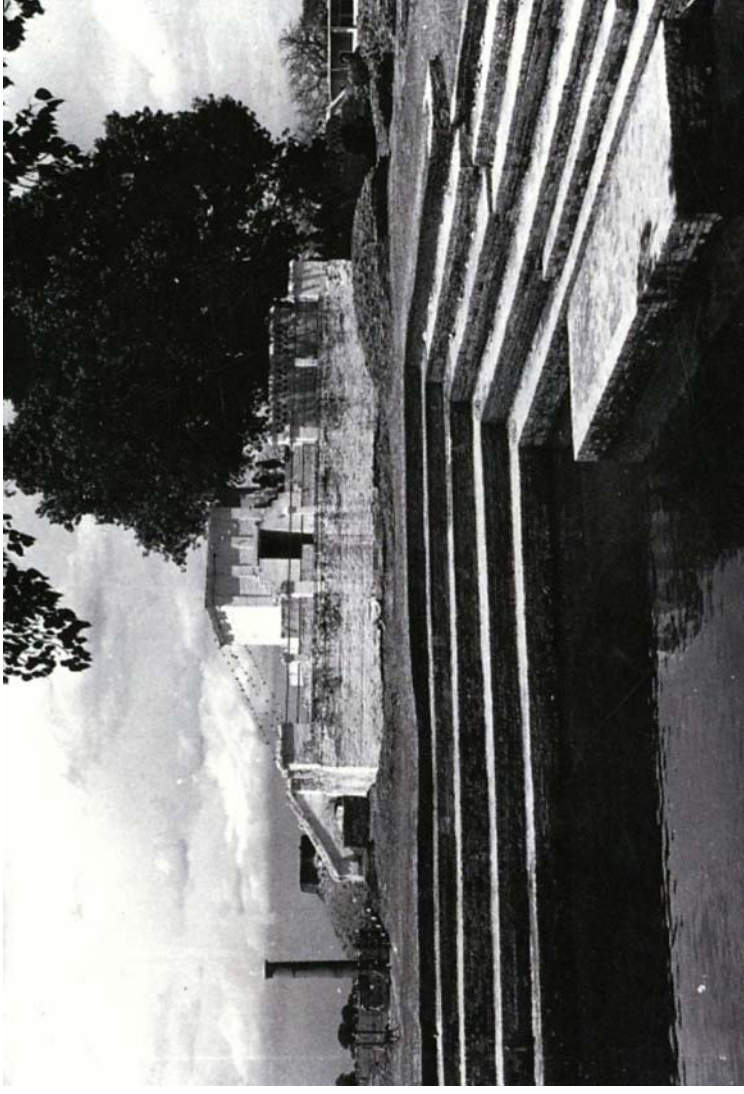


世界文化遺産 カトマンズ旧王宮、バサンプールバワン9階最上階からの市街



世界文化遺産スワヤンブナート ストゥーパ様式の仏教寺院 カトマンズの西の丘の上に建ち。起源は 2000 年前に遡る。秋から冬に霧がよく立ち込め、やがて光が差し込むと、いち早くスワヤンブナートにあたる。 猿が多く住みつき、「モンキー・テンプル」とも呼ばれる。

世界文化遺産 釈迦生誕地ルンビニ



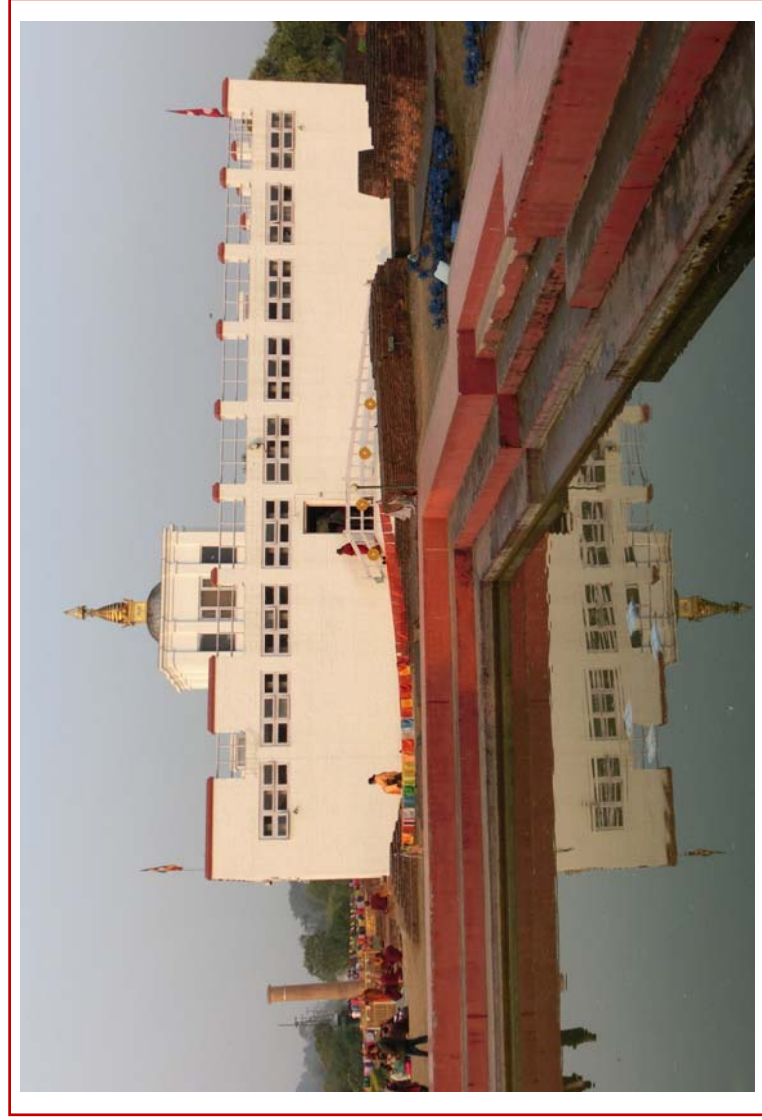
発掘前の BC3C に建造されたマヤーデビ寺院。菩提樹が建物を壊し始めたので解体し、地下 2.5m まで発掘。釈迦の生誕地であることが、学術的にも証明された。



母の右わき腹から降誕する釈迦生誕の像。



故ウ・タント国連事務総長が提唱し、日本人建築家丹下健三氏がマスタープランを考案したルンビニ平和公園。現在ほぼ建設は終了。



釈迦の生誕地ルンビニ、BC3C に建てられたマヤーデビ(釈迦の実母)寺院跡を 20 世紀末に発掘後、この白い建物で覆い保護している。左の石塔には、同時期の BC3C、マウリア王朝のアショカ王により建てられ、石塔壁に、釈迦生誕地であることを証明する文字が記載され残っている。手前の池は、実母マヤーデビが沐浴したと伝えられる。

②市民参加による北アルプス等での登山講習、ネパール地域においては、ヒマラヤトレッキング等、山岳を通じたスポーツ交流事業。

⑱2000年～2018年度まで、毎年、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の山岳スポーツ振興事業として、ヒマラヤの高所登山経験を生かして、「安全で楽しい登山」を目標に、登山技術と登山に必要な知識を系統的に習得するMHC登山講習を松本市共催事業（松本市山岳観光課）として開講。市民登山講習15講座～20講座として、中部山岳の北アルプス等で行っています。ヒマラヤを目指す市民にとっても、良い予備登山となっています。創立から述べ人数6500名余の参加者を数えます。

受講者は優れた登山技術を習得することで、あらためて安全登山についての認識を深めて頂き、山岳に対する豊富な知識と経験を積んだ愛好家として、また登山パーティーのリーダーとしても養成されていく事でしょう



毎年報告写真展開催



優秀作品を表彰



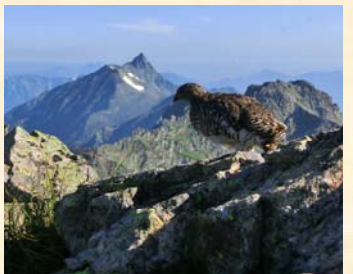
山岳写真講習の様子



MHC登山講習を開催



槍穂縦走路に行く



奥穂高岳都雷鳥



滑落停止の訓練



雪山講習八ヶ岳を登る



内田良平氏

写真家

山岳写真講師

そして事業年度毎（2000年～2018年の毎年）にMウィング又は井上デパートにて、MHC登山講習の報告写真展と市民参加の一般公募写真展を開催。優秀作品は、山岳写真家内田良平さんの審査により、金、銀、銅賞、内田良平特別賞等を厳選し表彰しています。撮影テクニックを得ていただいた参加者の優秀作品を多くの方々に鑑賞していただく事で、一般市民の皆様にも自然や登山への関心を深めてもらうことが出来るでしょう。

6月上旬 残雪の槍ヶ岳



朝の槍ヶ岳



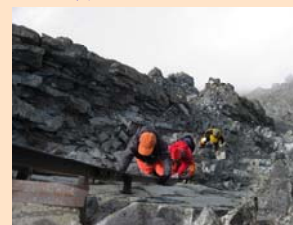
槍沢を登る



東鎌尾根に行く



槍肩からの槍ヶ岳



槍岩峰を登る



槍山頂に登頂



松本平タウン情報(当時)



写真展特設会場の様子

また2002年以来開催している、上高地バスターミナル市営上高地食堂2Fの特設会場での常設写展（松本市共催、毎年4/下旬から11/15まで）も、好評にて開催中。

鈴木雅則



MHC理事長

講習責任者



槍ヶ岳を背景に縦走路を行く 7月 MHC 登山講習「燕・槍ヶ岳縦走、天狗池経由上高地へ」から



紅葉に色づく穂高岳涸沢 10月 MHC 登山講習「紅葉の涸沢・奥又白を行く」から



八ヶ岳主峰赤岳 2899m、阿弥陀岳 2805mを背景に雪の硫黄岳稜線を登る

3月 MHC 登山講習「白銀の硫黄岳」から



穂高岳を背景に滑落停止の練習を行う 5月 MHC 登山講習「残雪の常念岳」から



長野支局
長野市中御所岡田64-5
(〒380-0936)
026(228)1456
FAX 026(228)0587
(広告)(226)9131
nagano-s@chunichi.co.jp

松本支局
松本市深志1-1-19
(〒390-0815)
0263(32)3453
FAX 0263(36)7800
(広告)(26)5881
matumoto@chunichi.co.jp

木曾通信局
0264(22)2102
FAX 0264(21)1001

大町通信局
0261(22)0243
FAX 0261(22)9314

塩尻通信部
0263(52)4300
FAX 0263(53)3479

飯田支局
飯田市東和町2-21
(〒395-0086)
0265(22)0555
FAX 0265(24)0858
(広告)(23)9049
chuida@chunichi.co.jp

伊那通信局
0265(72)2405
FAX 0265(73)9706

駒ヶ根通信部
0265(83)2804
FAX 0265(83)1409

諏訪通信局

松本ヒマラヤ友好会

日本アルプスのおひざ元松本市と、ヒマラヤの玄関口ネパールの首都カトマンズ市。二つの岳都が姉妹都市提携を結んで二十年になる。松本ヒマラヤ友好会はその間、市民レベルでの交流を担ってきた。同会は当初、登山愛好家らとともに「ヒマラヤ友好協会」として、ヒマラヤの魅力伝える講演活



2008年のヒマラヤトレッキングで「キー・ピーク」登頂を目指す参加者。松本ヒマラヤ友好会提供

「岳都」結ぶ役割担う

紹介する文化交流事、業、市民も参加して北を体感する機会を提供し、活動内容も大幅に拡大した。

動などを行っていた。姉妹都市提携を機に改称し、活動内容も大幅に拡大した。

紹介する文化交流事、業、市民も参加して北を体感する機会を提供し、活動内容も大幅に拡大した。

ヤトレッキングに挑戦する山岳スポーツ事業、ネパールの学生への奨学金支援など国際交流事業の三つ。これらを通して現地の人々と交流を深めている。

理事長の鈴木雅則は「ヒマラヤは、遠いところじゃない。挑戦することもできない」と話す。登山技術や山岳知識を身につける講習会を毎月二、三回開催。さらに、北アでは、県内外から参加者を募り、世界最高峰のエベレストが一望できるメラ・ピーク(六、四七六メートル)に登頂を目指す。登山技術や山岳知識を身につける講習会を毎月二、三回開催。さらに、北アでは、県内外から参加者を募り、世界最高峰のエベレストが一望できるメラ・ピーク(六、四七六メートル)に登頂を目指す。

「キー・ピーク」(五、三六〇メートル)などへの登頂を果たしている。海外でも信頼を得るため特定非営利活動法人(NPO法人)として取得した。登山講習会は飛行場の見学に来て、訪れた人は一様に空の存続を危ぶみ、辰野町の会社員栗林孝明さん(四七)は「県も日本航空もお互いに協議してほしい」と話している。

(安藤孝憲)

存続願いたいファン集う

松本空港でスカイフェス

松本市の県営松本空港で二十七日、航空機や空港に親しんでもらうイベント「スカイフェス」が、同市にある松本空港で開かれた。経営難の日本航空が同空

が当たる抽せん会などが行われ、来場者数は

は飛行場の見学に来て、訪れた人は一様に空の存続を危ぶみ、辰野町の会社員栗林孝明さん(四七)は「県も日本航空もお互いに協議してほしい」と話している。

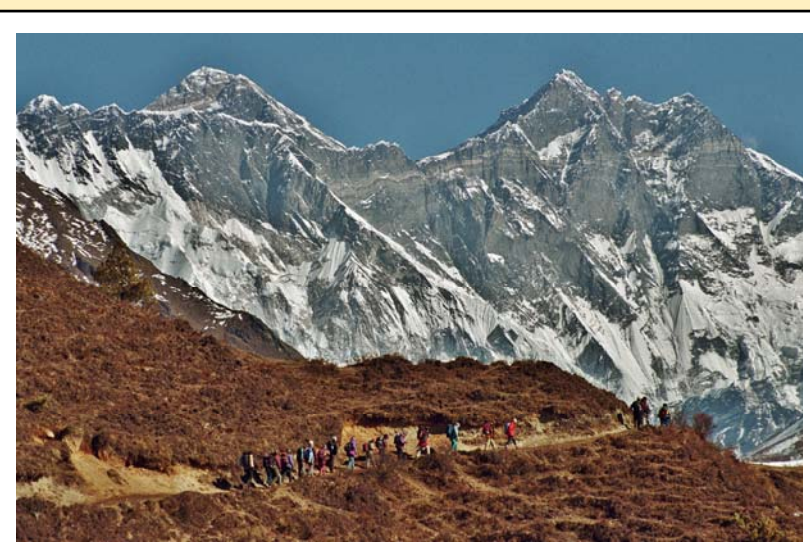
(杉浦正至)

大自然の中



身ぶり手ぶりを交え講演する内柴正人さん。松本市浅間温泉の松本第一高校で

ヒマラヤトレッキング



8000m 峰エベレスト、ローツェを望みエベレスト街道を行く カ市長を表敬訪問、歓迎される

姉妹提携以来、1990年から2018年までの間、市民参加により、北アルプス登山等でMHC登山講習にて体力調整しながら、姉妹都市カトマンズを訪問し、カトマンズ市の協力を得てネパールの文化に触れながら、ヒマラヤトレッキング及びハイキングを計27回実施。

その範囲は、クーンブヒマール、ランタンヒマール、アンナプルナ、ダウラギリヒマール方面に及び、2018年末まで述べ360余名が参加。現在まで全くの無事故、全員感激の内に終了してきている。



ロールワリンヒマール アンナプルナ・ムクチナート エベレスト・ゴーキョ、カラパタール各トレッキング

①1990年12月～,91年1月、ロールワリントレッキング、13名。1991年12月～,92年1月、アンナプルナ・ムクチナートトレッキング、13名。1992年12月～,93年1月、エベレスト・ゴーキョピーク登頂トレッキング、13名参加、5名登頂。

②1994年12月～1995年1月には、**姉妹提携5周年記念**エベレストトレッキングに40名以上が参加。カラパタールピーク5545mに参加者17名が登頂。カトマンズ姉妹提携委員会(当時)からも2名参加する。上記4回のトレッキングは、地元TV松本で、30分及び1時間番組として、映像を放映する。



アンナプルナ・トレッキング

ランタンヒマール・ヤラピーク5500m登頂トレッキング

③1995年12月～,96年1月アンナプルナ・トレッキングに14名参加

④1997年4～5月ランタンヒマール・ヤラピーク5500m登頂トレッキングに19名参加、13名が登頂する。

⑤1997年12月～,98年1月エベレスト・パノラマトレッキングに17名参加。

⑥1998年12月～1999年1月には、**姉妹提携10周年記念**エベレストゴーキョピーク5360mトレッキングに24名参加、24名全員が登頂。



民族衣装サリーを着て、市長へ報告



エベレスト・パノラマ・トレッキング

姉妹提携10周年記念ゴーキョピーク・トレッキング

- ⑦2000年4～5月には、**メラピーク・ヒマラヤ登山 6476m**に16名が参加。参加者13名が見事登頂を果たし、カトマンズ・ケシャブスタピット市長から登頂祝賀会を市長公邸で開催して頂き。祝辞を頂きました。
- ⑧2000年12～,01年1月、エベレスト・ファミリートレッキング19名参加、エベレスト街道をタンボチェへ
- ⑨**2002年7～8月、2003年6～8月、クライミングシェルパを講師**に、穂高岳涸沢でザイルワーク登山講習。



2000年メラピーク登山 6476mに13名登頂。カ市から登頂祝賀会に招待される。 穂高岳涸沢でザイルワーク講習

- ⑩2004年4～5月には、**姉妹提携 15周年記念アイランドピーク・ヒマラヤ登山 6160m**に8名が参加。フィックスザイル 50m×5本、250mを使用し、斜度80度の雪壁を登り詰め、参加者4名が見事登頂。
- ⑪2005年12～,06年1月、エベレスト展望トレッキングとカトマンズ訪問9名参加。2～3月初、報告写真展。
- ⑫2007年12月～,08年1月、**松本市市制 100周年事業**として、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」としてゴーキョピーク 5360m登頂トレッキングを実施。20名の登頂を果たし、1月報告写真展を開催し、**カトマンズ市長賞**を表彰するため、カトマンズから13名の視察応援団が来松する。



姉妹提携 15周年記念アイランドピーク登山 6160m 松本市市制 100周年事業「エベレスト撮影紀行」

- ⑬2009年12月～,10年1月、**MHC 創立 20周年記念事業**として姉妹提携 20周年記念「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行Ⅱ」としてカラパタール 5545m登頂トレッキングを実施。16名の登頂を果す。
- ⑭2010年12月～2011年1月、「岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行」として、プーンヒル 3194m登頂トレッキングを、カトマンズから2名を加えた15名で実施。14名が登頂を果たした。



姉妹提携 20周年記念エベレスト撮影紀行Ⅱ

アンナプルナ撮影紀行

- ⑮2011年12月～2012年1月、「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ」としてゴーキョピーク 5360m登頂トレッキングを実施。13名の登頂を果たす。



エベレスト撮影紀行Ⅲトレッキング

ヒマラヤ登山 クーンブヒマール・メラピーク 6457m

2000年4月末～5月初め実施 5月6日参加者16名の内13名が登頂する



広大な雪斜面を登る、

頂上直下 6400m 付近を登る

メラピーク 6476m



コック、ポーター隊員合わせ総勢80名のベースキャンプ 4900m 付近、



宿泊に使用した、かまぼこ型テント



2000年4月から5月、松本市とカトマンズの姉妹都市交流として、メラピーク 6476m ヒマラヤ登山を実施。

松本市民はじめ16名が参加し、5月6日、早朝 AM3:30 降雪の中、アタックキャンプ 5800m 付近を16名が出発。

ザイルを結びあいクレパスに注意しながら、大雪原を登りつづけ、AM11:00、13名が見事登頂する。



カトマンズへ帰還すると、カトマンズ・ケンヤブスタピット市長よりカ市主催で、市長公邸の庭に祝幕に囲まれた祝会場がつくれ、豪華なネパール料理と祝辞をいただき、ケンヤブスタピット市長とそのご家族全員、そしてマイナリ副市長も同席され、歓迎及び登頂祝賀会を開催して頂きました。

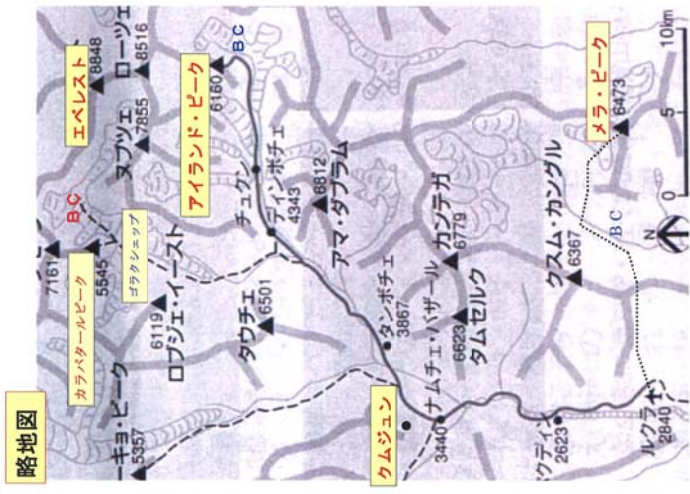
Topics

松本ヒマラヤ友好会が、市民登山としてメラ・ピークに登頂

NPO法人松本ヒマラヤ友好会(松本)の理事専任は、山岳登山の経験豊富な



5月6日午前10時50分、13人はメラ・ピークに登頂を果たした。
 メラ・ピーク登頂はアタック直前まで天候が悪く、アタック延期も検討されたがその後突然回復。山頂からはエベレストをはじめローツェ、マカルム、チョモランゴなどの山並みが望めたという。
 と、見解を深めた。
 松本市と姉妹提携を結んでいるカトマンズ市で、カトマンズ市長カシヤ・スタビツ氏を視察訪問するなど、同市関係者らと、見解を深めた。
 18日間におよぶトレッキングの期間中、登山トレッキングを計画し、5月6日、13人が同時登頂に成功した。
 ヒマールのメラ・ピーク(6476m)への登頂トレッキングを計画し、5月6日、13人が同時登頂に成功した。
 て、ネパールのメラ・ピーク(6476m)への登頂を中心とする16人の参加で、カトマンズ市と姉妹提携を結んでいるカトマンズ市で、カトマンズ市長カシヤ・スタビツ氏を視察訪問するなど、同市関係者らと、見解を深めた。
 18日間におよぶトレッキングの期間中、登山トレッキングを計画し、5月6日、13人が同時登頂に成功した。
 ヒマールのメラ・ピーク(6476m)への登頂を中心とする16人の参加で、カトマンズ市と姉妹提携を結んでいるカトマンズ市で、カトマンズ市長カシヤ・スタビツ氏を視察訪問するなど、同市関係者らと、見解を深めた。



日本では、山と溪谷社の月刊誌を通じて、MHCの山岳スポーツ振興と松本市とカトマンズ市の姉妹都市交流の市民登山として、メラピーク登頂の記事が全国に向け、トピックスとして掲載されました。

ヒマラヤ登山 クーンブヒマール・アイランドピーク6160m

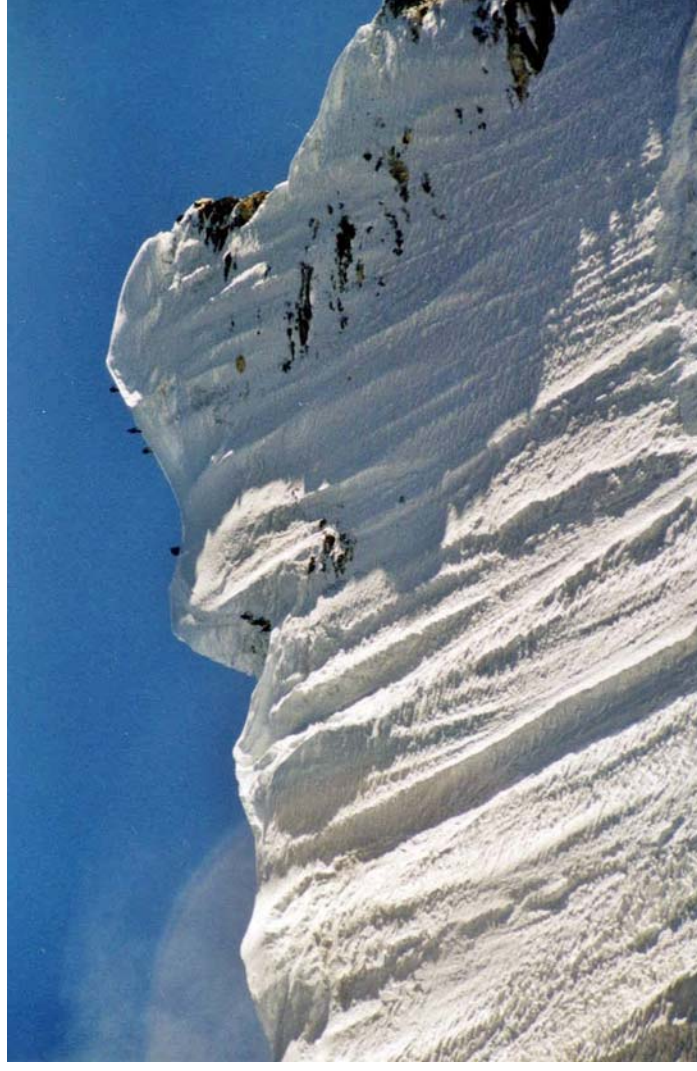
2004年4月24日～5月12日実施 5月3日参加者8名の内4名が登頂する



アイランドピークの全貌6160m



5900m 附近斜度 35 度強の斜面を登る



アイランドピーク 6160m



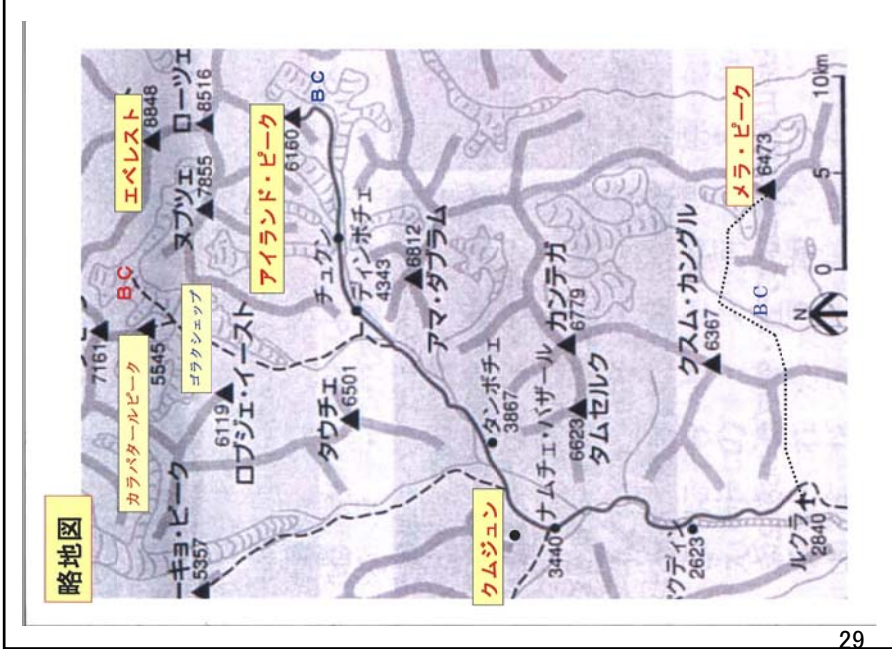
フィックスザイル 50m×5 本、ピークまで 250m を張り、稜線目指し斜度 70° の斜面を登る



疲れて遅れて登る隊員を気遣い励ます



標高 6000m 斜度 80 度の雪壁の懸垂下降



NPO 法人松本ヒマラヤ友好会は、松本市とカトマンズ市の姉妹都市提携の15周年を記念して、2004年4～5月に、市民参加による、クーンブヒマールのアイランドピーク(6160m)のヒマラヤ登山を企画致しました。5月3日AM9:50、6160mのピークに、参加者4名、シェルパ3名が見事登頂しました。

またネパール・カトマンズ訪問中は、MHCの国際協力事業を視察し、ネパールの人々との貴重な国際交流も進めることが出来ました。またカトマンズ市と松本市の姉妹都市交流の責任も、充分果たして来る事が出来ました。



2004年は、王国政治が混乱して、内乱となり、5月には、市長自ら謹慎中でしたが、私達の滞在を知り、カ市より面会を求められ、謹慎中のご自宅を訪問し、登頂のお祝いのお言葉をいただきました。
姉妹都市交流を何にもままして優先して頂いたことにあらためてお礼申し上げます。(写真中央の人がスタピット市長)

⑮2013年8月～9月、「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」として、30名が参加して、グリンデルワルト村々長らより大歓迎され、姉妹都市交流の責任も果たす。アイガー周辺、マッターホルン周辺を飽きなくハイキングする。

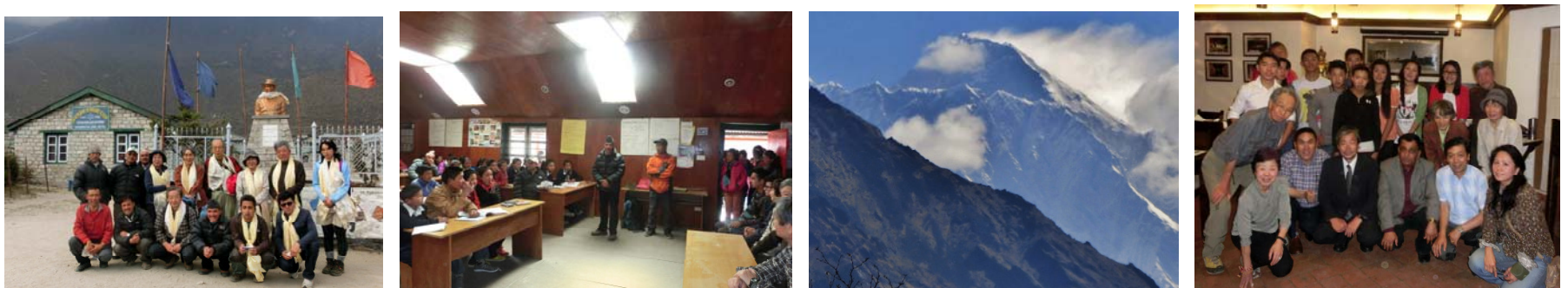


30名が参加した、岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング

⑯2014年4月～2014年5月、**姉妹提携25周年記念**「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行IV」としてカトマンズから2名を加えた9名で実施。菅谷昭松本市長の親書を持ち、カトマンズ市を表敬訪問。又エベレスト街道を登り、MHCが学生寮2棟、水道600m引き込みしたクムジュン校の学校訪問を行い学生らとの交流をする。カトマンズ帰還後、短期大学へ通う**MHC奨学生**らを**激励**し意見交換を行う。



カトマンズ市へ表敬訪問 ナムチェ上部のラリーグラス ナムチェからクムジュンへの登り クムジュン校と校庭



MHC学生寮と校長らと記念撮影 学生と交流会 通学路から望むエベレスト MHC奨学生を激励

⑰、2014年12月24日～2015年1月11日、「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行V」は、松本市民を始めとする参加者6名により実施。参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して古都カトマンズを探訪し、エベレスト山群の山麓を奥深く巡り、カラパタールピーク**5545m**の登頂を見事果たしました。

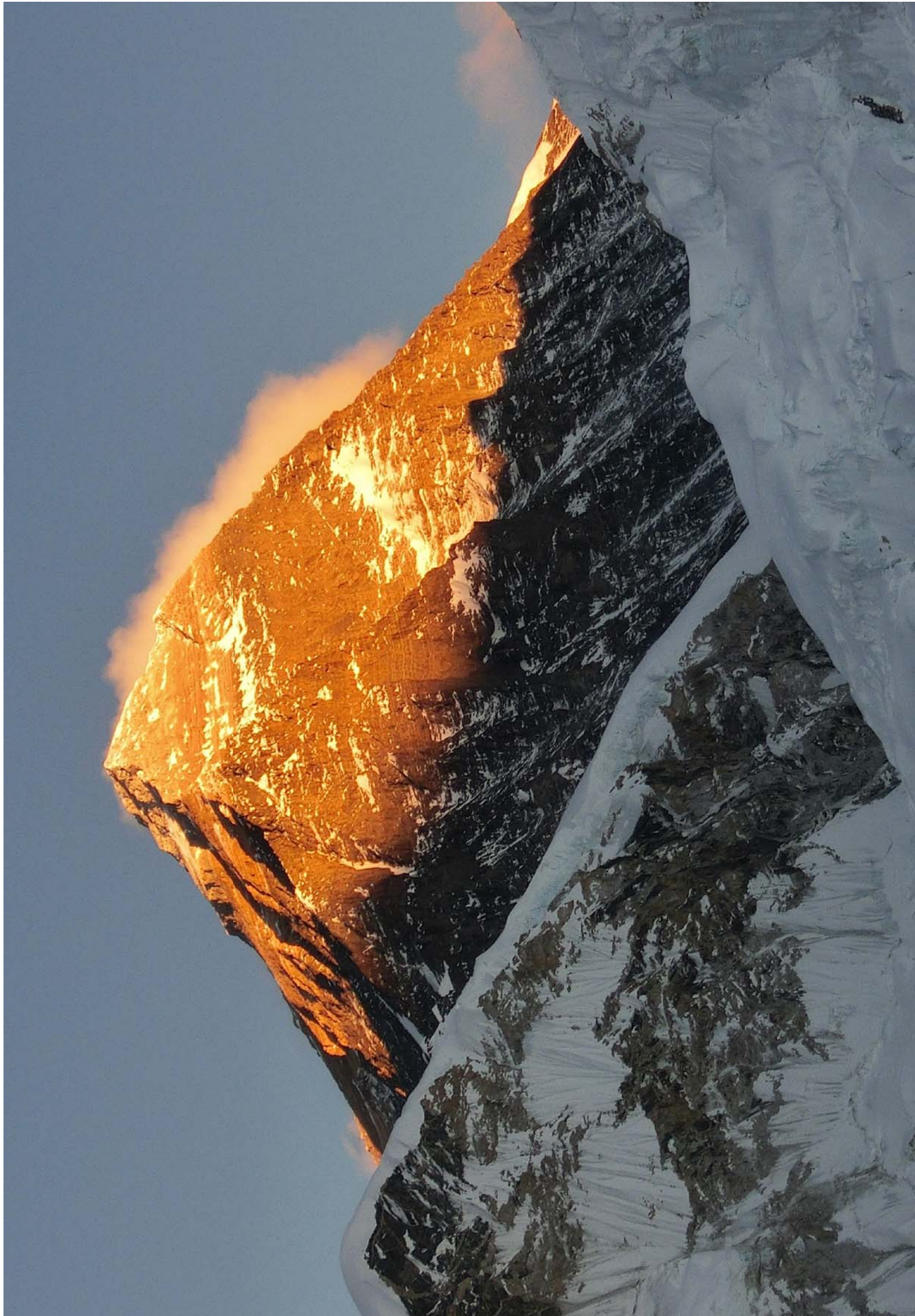


カトマンズ市長表敬 ピークを目指し登る カラパタールに見事登頂 夕照に輝くエベレストの雄姿

MHC松本カトマンズ姉妹都市交流事業としての「山と美しい自然」を仲立ちとした岳都交流と、松カ姉妹都市交流の責任も果たして参りました。



松本平タウン情報(当時) 市民タイムス



世界最高峰エベレスト 8848m の荘厳な輝き 2015 年 1 月 4 日夕方、カラパタール 5545m から

⑱2015年12月23日～2016年1月7日、「岳都カトマンズ訪問&エベレスト撮影紀行VI」は、松本市民を始めとする参加者6名により実施。参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して被災したカトマンズの世界文化遺産を視察、MHCネパール支部を通じ市民交流も行い、松本市との姉妹都市交流の責任も果たして参りました。

またエベレスト撮影紀行VIでは、エベレスト街道沿いのコースを实际歩き、ゴーキョピーク5360mの登頂を見事果たして、トレッキングコースの修繕状況や村の復興状況を視察し、観光復興状況を確認。カトマンズへ帰還後、ネパール山岳協会アン・ツェリン・シェルパ会長と会い、エベレスト方面の震災は、復興し、受け入れ態勢も準備ができ、観光にはほぼ支障が無い旨、日本の皆様に伝えることを約束し、「山と美しい自然」を仲立ちとした岳都交流も行って参りました。



カトマンズ市を表敬訪問 エベレスト街道を行く クムジュン校へ文具を遺贈 ゴーキョピークを登る



ピークへ見事登頂 夕照に染まるエベレスト・ローツェ 村の復興状況の確認 アンツェリン会長らと懇談

中日新聞

市民タイムス

毎日新聞

松本平タウン情報(当時)

報道各社を通じて、日本の皆様に報道され、ネパール山岳協会にも、その事が伝わりました。

③ 国際協力事業基金の設立によるネパール地域の勤勉学生及び医学生への奨学基金の運営及び学校建設とその運営、医療奉仕、農業指導等の事業への協力

- カトマンズのカレッジ(短期大学)へ通学する**勤勉学生への奨学基金制度**を1996年に設立する。ヒマラヤトレッキング等で誠実に対応するシェルパ族の青少年の教育促進に尽くすため、カトマンズ支部を通じ向学心旺盛なカトマンズのカレッジへ進学する学生へ支援する。これらの運営資金は、MHC 登山講習及び寄付金、講演料、物産展示販売の収益を国際協力事業基金に積立し、監視の元、使用されている。
- カレッジ学生に現在年間12名に、1名月3000ルピーを2年間。2018年9月現在23期生を迎える。(卒業生含現在まで104名の奨学生を支援)カトマンズ支部に**奨学基金事務局**を設置。パサンダワ事務局長が1ヵ月毎に学生の様子を確認し、奨学生に奨学金を支給している。
- 全員、カトマンズの大学でホテル経営学、教育学コース、エンジニアコース、**パサンダワ奨学金事務局長** 医師などを専攻し苦学しています。若い彼らが、ネパールの将来を背負って立つ事でしょう。



<p>第1期生 3名</p>    <p>ペンバマル ターラデビ ティミツェリン</p>			<p>第2期生 3名</p>    <p>ツェリンオングチョ ビムシェライ アンニマ</p>			<p>第3期生 3名</p>   <p>ミグマツウンズ ニママル</p>			
<p>第4期生 3名</p>    <p>アバヤシャライ ラクマンアドカリ カンチプチ</p>				<p>第5期生 3名</p>    <p>ダワヤンジ カンチフティ アンナムジャ</p>				<p>第6期生 3名</p>   <p>ツェリンユティン ダワヤンジ</p>	
<p>第7期生 3名</p>    <p>ペンバマル ペマシェルパ アンマル</p>			<p>第8期生 4名</p>   <p>アンダワ ミグナツェリン</p>						
<p>第9期生 3名</p>    <p>ツェリンオンム ソナムフィンジョ タシツェリン</p>			<p>第10期生 3名</p>    <p>パサンツェリン ダワツェリン アジュンカセット</p>				<p>第11期生 5名</p>   <p>カンチプティ カンチャマル</p>		
<p>第12期生 3名</p>    <p>チェティンタシ フラヤンジ ソナムエシ</p>			<p>第13期生</p>    <p>ミグマリタ ダワヤンジ フラタシ</p>						

第13期生6名 (2008年~2010年)

第14期生6名 (2009



ナワンドルジ

フバソナム

ミグマドルジ

ニマラム

ペンバジャム

チェティンダルジ

ニグマヌル

ニマドマ

~2011年)

第15期生7名 (2010年~2012年)



ペンバジャム

ペマチャムジ

タシフティ

ツェリンドマ

ツェリンカンチ

ラクパテンツ

ナワンヒンジョ

ツェリン・タシ

第16期生5名 (2011年~2013年)



フーバテンジン

ソナムドカ

ダワパサン

ダワフティ

ニマドマ

ドマヌル

ペマチュティン

パサンヌル

第17期生6名 (2012年~2014年)

第18期生5名 (2013年~2015年)



ツェリンウォム

ペンバツェリン

タシフティ

ニマオンチュク

ツェリンカツワル

カミツェリン

ラクパカンチ

フラカンチ

第19期生6名 (2014年~2016年)



ドリジチュティン

パルデンドマ

ラクパヌル

ラクパツェリン

パサンツェリン

ソナムウォンディ

ペマドカ

ソナム・チュティン

第20期生5名 (2015年~2017年)

第21期生6名 2016年~2018年



ソナムギャルゼン

リタドルジ

ダワジャグム

チャワンパルム

ラクパヤンジ

チェワンオアルム

フ・ドルジ

ニマ・ドカ

第22期生名5名 2017~2019年



ペンバテンジン

サガットバストラ

ツェリン

ミグマタマン

ナワンチリン

ペンバチレ

カミテンバ

ワンディシェルパ

第23期生6名 2018年~2020年



ドルジギャルゼン

ミグマラム

ニマヌル

パサンヤンジ

サパナライ

ツェリンパルデン

第15期生ツェリン・タシ
NepalMedical Collage で勉学、
2018年医師試験に合格し、現在イ
ンドでインターシップ期間中。

● 国際協力推進プロジェクト

国際協力事業基金の設立によるネパール地域の勤勉学生の為の奨学基金の運営

●カトマンズのカレッジ(短期大学)へ通学する**勤勉学生への奨学金**を1996年より支給。シエルパ族の青少年の教育促進に尽くすため、カトマンズ支部を通じ向学心旺盛なカトマンズのカレッジへ進学する学生へ支援する。

●カレッジ学生12名/一年に、月3000ルピ/一人、2年間奨学金支給。2018年12月現在23期生を迎える。(卒業生含め現在まで104名を支援)カトマンズ支部に**奨学金事務局**を設置。1カ月毎に学生の様子を確認し、奨学生に奨学金を支給している。

●国際協力事業基金の積立

MHC 登山講習及び寄付金、講演料、物産展示販売の収益が国際協力事業基金に積立てられました。私達の小さな活動がネパールの青少年の教育の為に役に立っています。卒業後村の行政機関や学校の先生、病院の医者、ロッジの経営、等に携わっています。



2018.3.20 奨学生と最奥に鈴木理事長とバストラ校長



ネパール医科大学

MHC 奨学生ツェリン・タシ君は医師試験に合格 2018年度はインターシッピング期間中です。



診察中の奨学生タシ君



2009年3月ネパール医科大学生でMHC奨学生、医学生5年生のポナム・キヤンデールさん(当時22歳)とソナリ・カフレスさん(当時22歳)を信州大医学部インターシッピング講習生として学んでもらう。



松本城を観光

ソナリさん ポナムさん



菅谷市長表敬訪問



修了証交付

●ソルクンプ、エベレスト街道沿いのクムジュン村ヒラリースクール・クムジュン校の遠隔地通学高校生の為の**新学生寮建設、水道引込み工事。**

- ③2001年～2002年冬期に資材を用意。建設敷地は、クムジュン村クムジュン校内中央に確保。2002年3月15日着工。新学生寮(60ft×21ft)、台所・食堂(34.5ft×21ft)シャワー室(19.5ft×9.0ft)、総面積約200㎡、水道引込み600mと貯水槽の建設が進められる。7月4日に完成引渡。総工事費は、約510万円であった。
- ④この費用は、外務省の草の根無償資金協力を得ることが出来、2001年10月12日、カトマンズの日本大使館において「クムジュンスクールの新学生寮建設の為のプロジェクト」と題し鈴木雅則理事長がカトマンズの日本大使館と契約を交わし、33,998ドル(当時約440万円)の援助を受けた。



外務省広報に完成引渡を掲載

エベレストを望む峠を越えると、神の山クンビーラの麓に広がるクムジュン校



6月末、ヒラリースクール・クムジュン校の遠隔地通学高校生の為の新学生寮建設、水道引込み工事完了する



- 2002年7月4日、鈴木理事長が主賓となり、完成引き渡し式が行われる。学生達がお祝いの踊りを披露
- ⑤2011年5月26～29日、松本ヒマラヤ友好会鈴木雅則理事長は、ヒラリースクール・クムジュン校開設50周年式典に招待され、現地クムジュン校式典会場に出席。来賓の文部大臣代理マハシュラム・シャルマ氏より、故エドモンドヒラリー氏夫人ジュンヒラリーさんと共に、理事長に感謝状が授与される。
- ⑥創立50周年を記念して新しい食堂を建設。MHCの建物の台所・食堂を、学生寮に改造し、増える学生達の宿泊施設要望に答える事とした



創立50周年を記念して新しい食堂を建設し、MHCの建物を学生寮に改造。MHC理事長に感謝状が授与される



山と溪谷社

信濃毎日新聞

毎日新聞

市民タイムス

ヒラリースクール・クムジュン校学生寮の完成引渡の情報は、山と溪谷社に掲載され、日本全国に報道されました。カトマンズの複数の主要新聞3社でも、同様に記事が掲載され、カトマンズでも報道されました。



エドモンドヒラリーさんの胸像。2008年に、惜しまれながらお亡くなりになりました。



1960年、最初に建設されたアルミニウム性の小さな校舎、クムジュン校が開校される

エドモンドヒラリーさんは、1953.5.29 イギリスのエベレスト登山隊の隊員として、世界最高峰エベレスト 8848mに初登頂しました。登頂後、エベレスト周辺の峰々を登りながら、エベレスト山麓に学校と病院が無いことに苦悶する。

ある夜、岩陰で焚火を囲みながら、「シェルパの人々に何かできることはないか」とヒラリー卿が尋ねると老シェルパが「クムジュン村の子供たちは、ヒマラヤの青い空のようなきれいな目を持っているが、知識を通して見る事が出来ない、学校が必要だ」との進言から、1960年クムジュン村にアルミニウム性の小さな校舎を建設。1961年公認のヒラリースクール・クムジュン校が開校される。

隣のクンデ村からも、生徒が集まり、靴を履いていない47人の子供たちが、この地域初めての近代教育を受ける生徒となりました。そして現在、クムジュン校は、10学年まで学ぶことが出来、優秀な学生はカトマンズの大学で学ぶことを希望し、当MHCでは、奨学基金を設け、応援しています。彼らの多くは故郷に帰り、地元の発展に貢献しています。クムジュン校は、総生徒数 350 余名を数え、この地域では最優秀校と賞賛されています。

エドモンドヒラリーさんは、2008年、皆に惜しまれながら、お亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

Dear President & all the respected members of Matsumoto Himalaya Friendship Club (MHC)

Many Greetings from Nepal

First of all I would like to thank Mr Masanori Suzuki President of MHC for the kind cooperation and support to mountain people. I would like to extend my best wishes to you all for a successful annual general meeting of MHC 2018.

Matsumoto Himalaya Friendship Club (MHC) has been supporting Nepal specially in Everest region in the field of education for the last 22 years.MHC has contributed tremendously for the betterment of education of Khumbu. MHC constructed hostel for Khumjung school in 2002.It has been providing financial assistance for electricity cost of the hostel, and by far the most important activity is the Scholarship program that it MHC has been providing continuously since 1996 for the students of Khumbu for their higher education. (after SEE)

It was great opportunity for me to connect with you in 1996, since then MHC have started to provide the scholarship support program continuously. By 2017, 98 students have got the opportunity to pursue their higher education in Kathmandu from the scholarship support from MHC.

Khumjung school is government school and all the course was based in Nepali language medium. In 2011 on the occasion of Golden Jubilee, Local people initiated and changed the all course based in English Language. Now students are getting education in English medium so that children get same slandered of education like Kathmandu. Khumjung school is attempting to provide quality education in the mountain region, at the altitude of 3790 MTRS where there is limited government concern and facility. We are very lucky to have well wisher & supporter like Sir Edmund Hillary's organization Himalayan Trust and organizations like MHC who have been supporting to improve the education quality of the school and motivate its student & teachers.

略

I would like to thank Mr Suzuki San for organizing the MHC Trekking group to Gokyo Everest region in winter 2015 right after the earthquake. I believe, the MHC members Trekking group to Everest region motivated many local and international people and t gave a positive message to all that "Nepal is safe for tourism" after the earthquake.

We appreciate your long time support and would like to thank all members of MHC and the people of Japan for your continuous love, generosity and concern for the people of the Himalayas.I wish you all for the good health.

Thank you very much.

Pasang Dawa Sherpa



親愛なる理事長と松本ヒマラヤ友好会 (MHC) の皆様へ

ネパールからご挨拶致します

まず最初に、MHC 理事長鈴木雅則氏に、山岳民族への協力と支援の感謝申し上げます。私は、MHC2018 度総会が成功裏に終えることを、心より貴方に申し上げます。

松本ヒマラヤ友好会 (MHC) は、過去 22 年間、エベレスト地域の教育分野で、特別にネパールを支援してきました.MHC はクーンブ地域の教育改善に大きく貢献してきました。MHC は 2002 年にクムジュンの学校の学生寮を建設。それ以来、学生寮の電気代の資金援助を提供していますが、最も重要な活動は、MHC が高等教育のためにクーンブ地域の学生のために 1996 年以来継続的に支給している MHC 奨学金制度です。

私は、1996 年から、MHC が奨学金制度を設立して以来、あなたと継続的に連絡を取り合う良い機会を得ました。2017 年までに、98 人の学生が、MHC からの奨学金支援を得て、カトマンズで高等教育を推進する機会を得ました。

クムジュン学校は公立学校であり、すべてのコースは、それまでネパール語の媒体に基づいていました。創立 50 周年記念の 2011 年に、地元の人々には、すべてのコースにおいて、英語を基本に、授業開始を致しました。現在、学生は英語の媒体で教育を受けているので、子どもたちはカトマンズで行うような教育を受けています。クムジュンの学校は、政府の支援と学校施設が限られている標高 3790 メートルの山岳地帯において、質の高い教育を提供しようとしています。エドモンド・ヒラリー一騎の組織するヒマヤン財団や MHC のような団体のように、学校の教育の質を向上させ、学生と教師の熱意を支援してくれていることをとてもうれしく思います。

略

震災直後の 2015 年冬に、エベレスト・ゴークョ地方に MHC トレッキンググループを編成してくださった鈴木さんに感謝したいと思います。私は、MHC のメンバーであるエベレストへのトレッキンググループは多くの国内外の人々に復興の動機を与え、地震後に「ネパール観光は安全です」と、すべてへ向かって、肯定的なメッセージを送ったと思います。

私達は、ヒマラヤの人々の為の、長い間のご支援、皆様のご愛顧、寛大なご配慮に対して、日本及び MHC の全会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

皆様のご健康をお祈り申し上げます。

ありがとうございます。

パサン・ダワ・シェルパ



安曇野市穂高北小学校の児童会・PTA の文具寄贈運動の経過

穂高町北小学校PTAによるバザーの収益 45,000 円が集まり、クムジュン校へサッカーボールの購入にと原田 PTA 会長と青木勇太児童会長ら 4 名が 2005 年 11/18MHC 本部を訪問。他に皆で数ヶ月かけて集めた文房具も持参しました。

12/21 日カトマンズ訪問時に、鈴木理事長よりクムジュン校運営委員会パサンダワ氏とクムジュン校を管理運営しているヒマラヤントラスト(ヒラリー氏の財団)・カトマンズ事務局のツクテン・シェルパ氏に手渡してきました。クムジュン校では、サッカーボールの他、バレーボールやその備品を購入したいとの事でした。



クムジュン校カ事務局へ手渡す。直ぐに定期便でルクラへ飛び、エベレスト街道を登り学生らに手渡される。

MHC 本部へ文具等持参
(市民タイムスより)

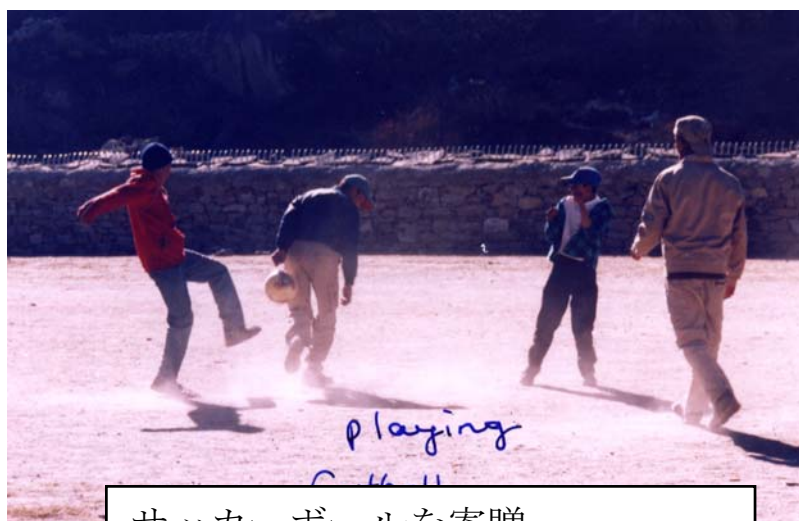
2006 年 12/8、安曇野市穂高北小学校 PTA 役員と笠井花児童会長ら 4 名が MHC 本部を訪問。クムジュン校への手紙や全校児童で集めた文房具 20 kg も持参しました。12/29、カトマンズ訪問時に、鈴木理事長よりクムジュン校運営委員パサンダワ氏とクムジュン校を管理運営しているヒマラヤントラスト・カトマンズ事務局のツクテン・シェルパ氏に手渡してきました。



文房具 20 kg を手渡す



学校の教室内の学生と先生



サッカーボールを寄贈



バレーボールネットを寄贈

この文房具は、カトマンズ国内空港から、エベレスト街道玄関ロルクラへの定期飛行便に乗せられ、ルクラからはポーター等により、クムジュン校まで運ばれました。

①2009年1/12AM9:30 エベレストホテルロビーで、安曇野市立穂高北小学校の校長先生、児童会長からの手紙と全校児童より集めた鉛筆、ノート、絵の具等 13 kgの文具を、クムジュン校運営委員パサンダワさんに手渡しました。



文具引き渡し現場



訪問にあたり、安曇野市穂高北小学生徒が一年かけて集めた文具を、校長先生の手紙を添えて、クムジュン校の生徒へ持参します。12/19 夕、PTA、生徒会議長らが、鉛筆、クレヨン、ノート等約 13kg の文具を持って、MHC 本部へ来てくれました。

①2009年12/17 安曇野市穂高北小学校 PTA 役員と正副児童会長らが MHC 本部を訪問。

クムジュン校への手紙や全校児童で集めた文房具を持参しました。

②2009年12/27 クムジュン校訪問。クムジュン校先生4人と運営委員らが対応。

穂高北小学校からの手紙や絵画、全校児童で集めた文房具を渡す。

2010.1/4 クムジュン校から返事の手紙をもらう。



クムジュン校校長室内で文具渡す

③ 2010年12月27日 AM9:30、参加者滞在中のアンナプルなホテルへクムジュン校（ヒラリースクール）運営委員のパサンダワ氏が来訪。安曇野市穂高北小学校の文具と絵画、校長先生や児童会長の手紙を引き渡しました。

これらの文具等は、国際線でルクラへ運ばれ、ポーターに担われ、ナムチェバザールを経て、クムジュン校へ運ばれます



クムジュン校運営委員に、穂高北小の文具を手渡す

⑥2012年12/5(水)、安曇野市穂高北小学校、児童会、PTA、からヒラリースクール・クムジュン校への文具を、MHC 松本本部事務局へ持参してきます。今回は、

参加の協力を得て、一人2 kg弱の荷物にして、計 20 kgをカトマンズへ運びます。そしてカトマンズ支部奨学事務局長パサンダワ君に引き渡して、クムジュンへ送ってもらいます。



(文具引き渡し、市民タイムス掲載写真から)

②クムジュン校へ文具を送る運動

2013年12/9、安曇野市穂高北小学校生徒らが、集めた帳面、鉛筆等の学校分具約 25 kgを、PTA 役員、学校生徒役員、顧問教諭ら 8 名が MHC 本部へ持参。引き渡しを行いました。

これらの文具は、2004年4/24～5/3の花のエベレスト撮影紀行時に、参加者が手分けして、直接クムジュン校へ運び、手渡します



市民タイムスから

穂高北小学生徒ら文具を持参

2014年MHCは、この春エベレスト撮影紀行Ⅳを実施。4/26 カトマンズから**定期便でエベレスト山麓のルクラ**へ飛び、ルクラからは、シェルパ3人とポーター6人と共に、エベレスト街道を登り4時間で**パグディン泊**。4/27、8時間をかけ、途中600mの高度差の急坂を登り、標高3440mの**ナムチェバザール泊**。4/28、2時間程で標高3790mクムジュン村に到着。

午後、ヒラースクール・クムジュン校を訪問し、MHCの建設した学生寮などを視察しながら、マヘンドラ・カセット前校長先生ら、学校関係者と学生らとも交流。その際、**安曇野市穂高北小学校の児童会、PTAが集めた文具**を持参し、クムジュン学校へ引き渡しを行いました。この日**クムジュン泊**。



ネパール国家ラリーグラス咲くナムチェ コンデリを望みクムジュンへ。クムジュン校訪問、文具も引渡す

●国際協力事業・ヒラリースクール・クムジュン校維持運営、MHC奨学基金支援事業と文具寄贈

①例年実施してきた、安曇野市穂高北小学校からの、クムジュン校への文具寄贈は、去る2014年12/2夕刻、PTA会長(当時)より、電話で「中止する旨」伝えてきました。

創案者の元PTA原田匡代会長の2人目のお子さんが卒業されて2年以上が経過し、意義並びに熱意も薄れ、またここ3~4年説明会の必要性を当法人より、小学校PTAへお伝えしておりましたが、開催予定も設けられていない状況でした。**安曇野市穂高北小学校の文具寄贈事業は、終了**といたします。



エベレスト街道沿いの道端で本を読む子供達

●MHCでは、これからは、クムジュン校訪問の際、**独自に、文具を持参する事**とした。

2014年MHCは、冬にゴーキョピーク登頂トレッキングを実施。12月29日PM2:00冬季のクムジュン校(ヒラリースクール)訪問。10年生が補習授業を行っており、3人の教師に、最近情報を聞き、MHCが持参した教育文具、帳面と鉛筆を手渡す。



クムジュン校へMHCの文具を手渡す



クムジュン校の明るい生徒達



クムジュン校の先生

トレッキング中に出会うネパールヒマラヤの峰々



ヒマラヤトレッキング エベレスト街道を行く



エベレスト街道から望む、巨峰エベレスト左 8848mとローツェ右 8516mの荘厳な輝き



ディンボチェ 4300m附近から仰ぐアマダブラム 6812m



カラパタールから望む夕闇迫るエベレスト 8848mとヌプチェ 7855m



長野県山岳連盟（当時）が初登頂を成し遂げたギャチュンカン 7952m



チベットとの国境に屹立するチョオユ-8201mの威容



マナスル左 8163m、ピーク 29 右 7871m。いずれも日本隊が初登頂。



サランコット（約 1680m）から下山する途中、道端の小店に立ち寄り、買い物をしていると、雲が晴れ、青空にアンナプルナ山群が、空高くその姿を現した。



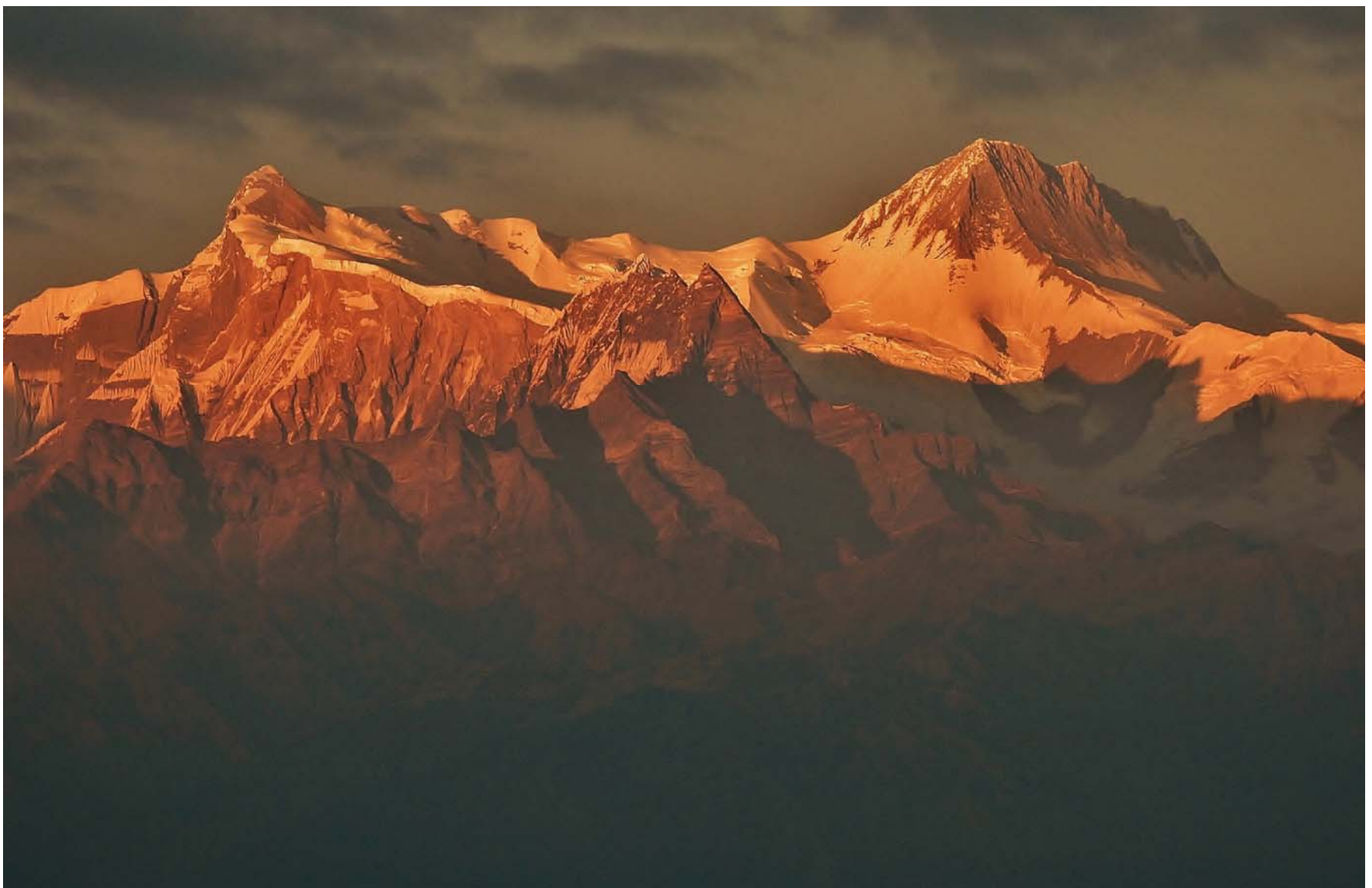
2011年1月1日 AM6:30 プーンヒル・ピーク 3194mに14名が見事登頂する。しばらくで東の空を橙色に染めて初日の出が昇る。北方のアンナプルナI峰（左）8091m、アンナプルナサウス（右）7219mが赤色に照り輝き始めた。



2011年1月1日プーンヒル・ピーク 3194mから望む、初日の出に照り輝くダウラギリI峰 8167m。



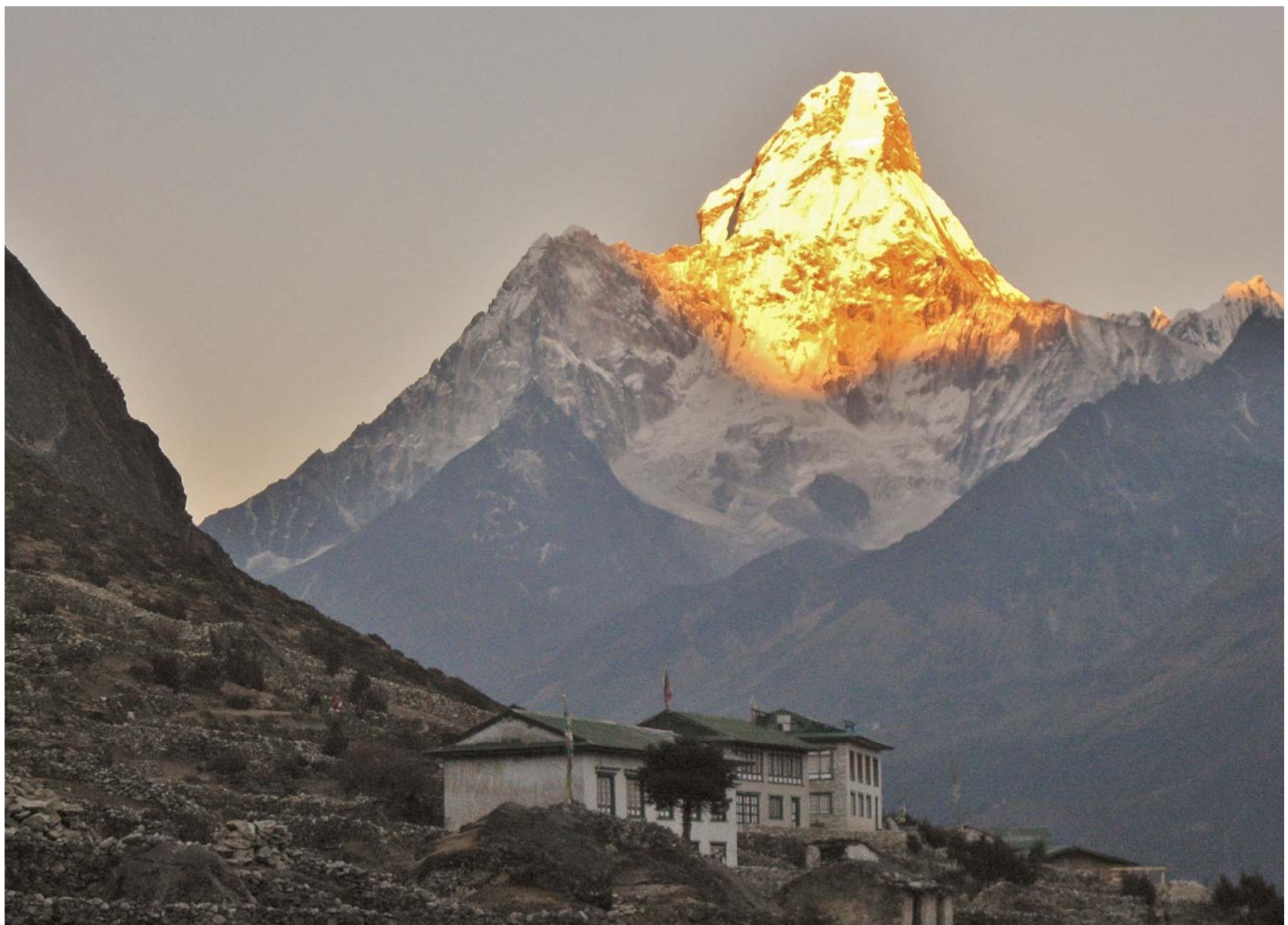
朝陽を浴びて輝くマチャプチャレ 6993m サランコット 1680mから



夕焼けに染まるアンナプルナⅡ峰 サランコット 1680mから



クムジュン村から仰ぐタムセルク 6623m



暮れゆくクムジュン村の家々とアマダブラム 6812m



メンダン(経文が刻まれたマニ石)とチオルテン (仏塔) クムジュン校にて



ネパールの国花ラリーグラスとクスムカングルー6367m



「タムセルク 6623mを望み、エベレスト街道に行く」
MHCエベレスト撮影紀行Vから 撮影 鈴木雅則

ヒマラヤの青い空とカトマンズ

撮 影 鈴木雅則

印刷・製本 NPO 法人松本ヒマラヤ友好会事務局

価格 本体 800 円 + 税